

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。

目 標

(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。

(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

位 置
づ け

1年次の言語文化に引き続き、古典分野の知識を身につけ、教養を高めていく。3年次でも2単位実施。

■使用する教材

- ・教科書「精選古典探究 古文編」(東京書籍)
- ・教科書「精選古典探究 漢文編」(東京書籍)
- ・問題集「マーク試験のための基本練習 古典 10」
(尚文出版)
- ・参考書「改訂三版 完全マスター古典文法」(数研出版)
「基礎から解釈へ 漢文必携 五訂版」(桐原書店)
「新訂総合新国語便覧」(第一学習社)
「わかる・読める・解ける key&point 古文単語 330」
(いっずな書店)

■授業の流れ、予習・復習を含めた学習方法

- 【共通】古文単語小テストを通して古語を定着させる。
- 【古文】本文を音読して古語の響きを味わい、語彙や文法の確認をしながら口語訳に挑戦する。
- 【漢文】本文を音読して漢文独特のリズムに慣れ、句形の確認をしながら口語訳に挑戦する。

■学習する単元とおおよその時期

〔4月～6月〕

1. 【古文】(和歌の修辞)
伊勢物語「東下り」
2. 【古文】(敬語の理解)
枕草子「中納言参り給ひて」
「雪のいと高う降りたるを」
「二月つごもりごろに」

〔7月～8月〕

3. 【漢文】(句形の理解)
十八史略「先從隗始」「完璧而帰」
4. 【古文】(心情の理解)
蜻蛉日記「なげきつつひとり寝る夜」

〔9月～10月〕

5. 【漢文】(内容の理解)
史記「鴻門之会」

〔11月～12月〕

6. 【古文】(内容の理解)
大鏡「花山天皇の出家」

〔1月～3月〕

7. 【漢文】(内容の理解)
史記「四面楚歌」「項王自刎」
8. 【漢文】(思想の理解)
儒家の思想と道家の思想

■観点別評価について

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	【古文】 基本的な語彙、文法の知識、時代背景や古典世界の基礎知識を身につけることができる。 【漢文】 句法を初めとした口語訳に必要な知識を身につけることができる。	作品の読解を通して過去の考え方や文化を理解し、現代の考え方や価値観、文化との違いを考えることができる。	関連する作品について調べたり読んだりして、より広く深く古典知識を身につけようとしている。
	B 上記を概ね達成できている。	身につけた知識や技能を元に、古文・漢文を口語訳することができる。	教材や古典に関わる知識に関心を持ち、積極的に学ぼうとしている。
	C 上記が達成できていない	上記が達成できていない	上記が達成できていない
評価の場面	単元テスト 小テスト 課題の提出内容	単元テスト 単元後の課題プリント 授業中の発言内容	授業中の参加態度 課題の提出状況

■領域ごとの授業時間数について（国語科の新学習指導要領科目のみ）

単元名	1 【古文】「東下り」	2 【古文】敬語の基本と留意すべき敬語	2 【古文】「中納言参り給ひて」	2 【古文】「雪のいと高う降りたるを」 「二月つごもりころに」	3 【漢文】「先従隗始」	3 【漢文】「完璧而帰」	4 【古文】「なげきつつひとり寝る夜」	5 【漢文】「鴻門之会」	6 【古文】「花山天皇の出家」	7 【漢文】「四面楚歌」	7 【漢文】「項王自刎」	8 【漢文】儒家の思想 道家の思想
読むこと	8	3	4	6	3	3	5	10	10	3	3	6

計 6 4 時間

年間単元テストの予定

実施予定時期	実施予定内容
7 月	上記の単元 1・2
8 月	上記の単元 3・夏休みの課題の確認
10 月	上記の単元 4・5
1 月	上記の単元 6・冬休みの課題の確認
3 月	上記の単元 7・8

●その他に単元の確認はそのつど実施予定。